

国際比較調査に見る日本の高齢者の意識

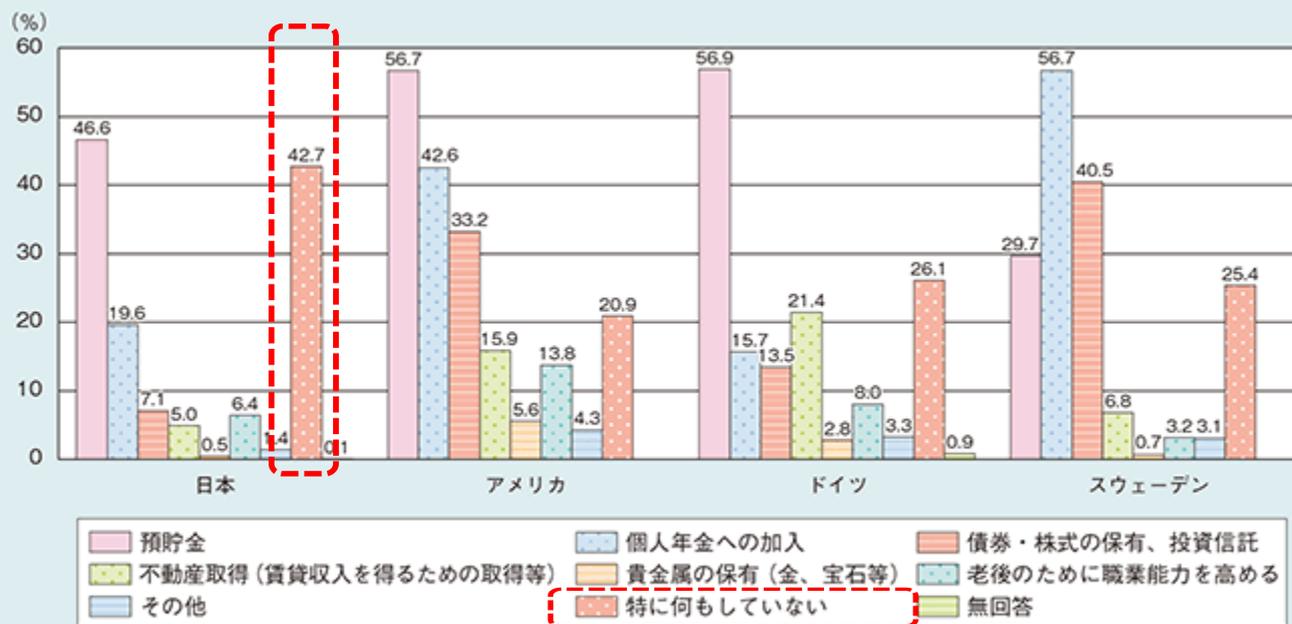
「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」(平成27年)

内閣府 政策統括官(共生社会政策担当)付
高齢社会対策担当

1. 老後の生活費に対する備え

○ 50代までに行った老後の経済生活の備えについて、「特に何もしていない」と回答する60歳以上の割合は日本が約4割と高い。

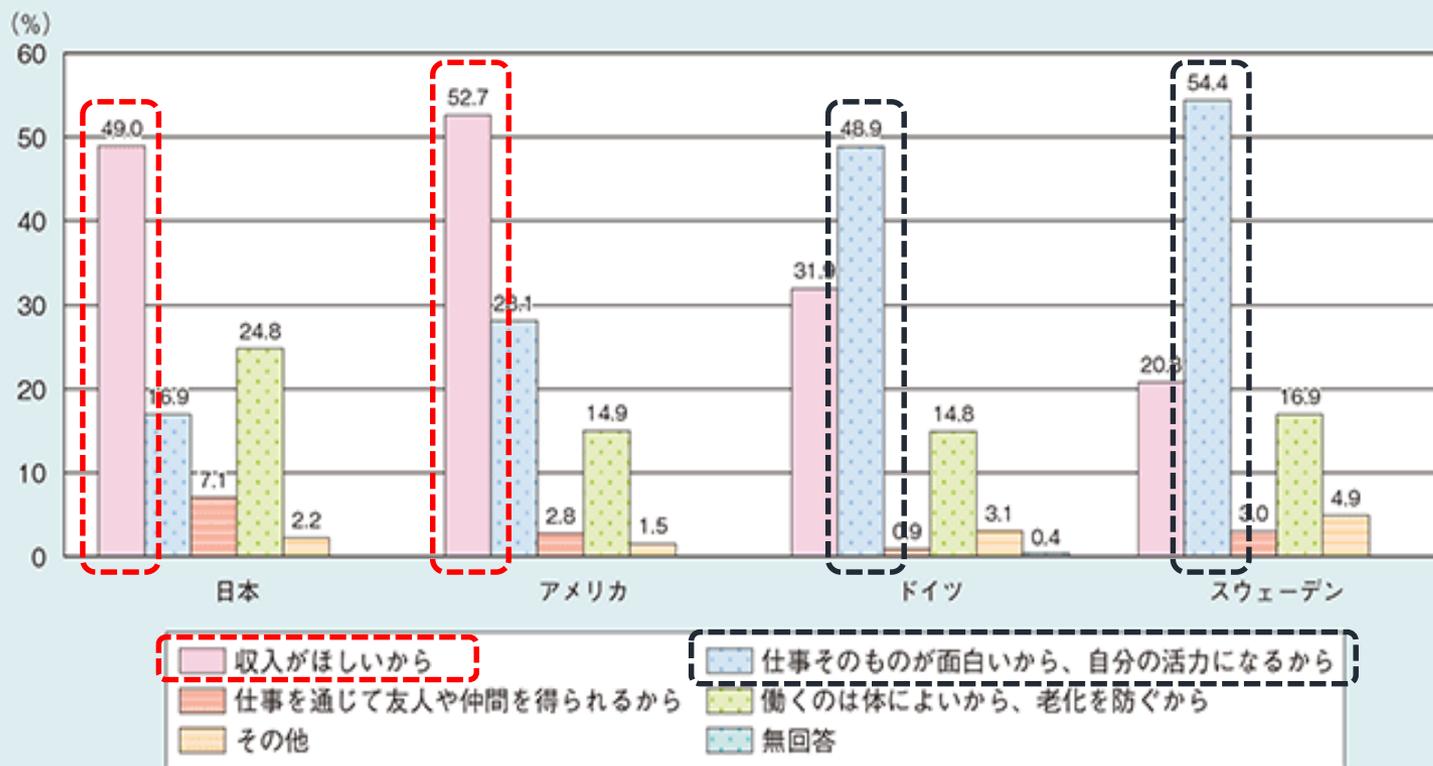
図1-3-1 老後の生活費に対する備え（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成27年）
（注）対象は60歳以上の男女（施設入所者は除く）

2. 就労の継続を希望する理由

- 収入を伴う仕事をしたい主な理由は、日本とアメリカは「収入が欲しいから」ドイツとスウェーデンは「仕事が面白いから、活力になるから」

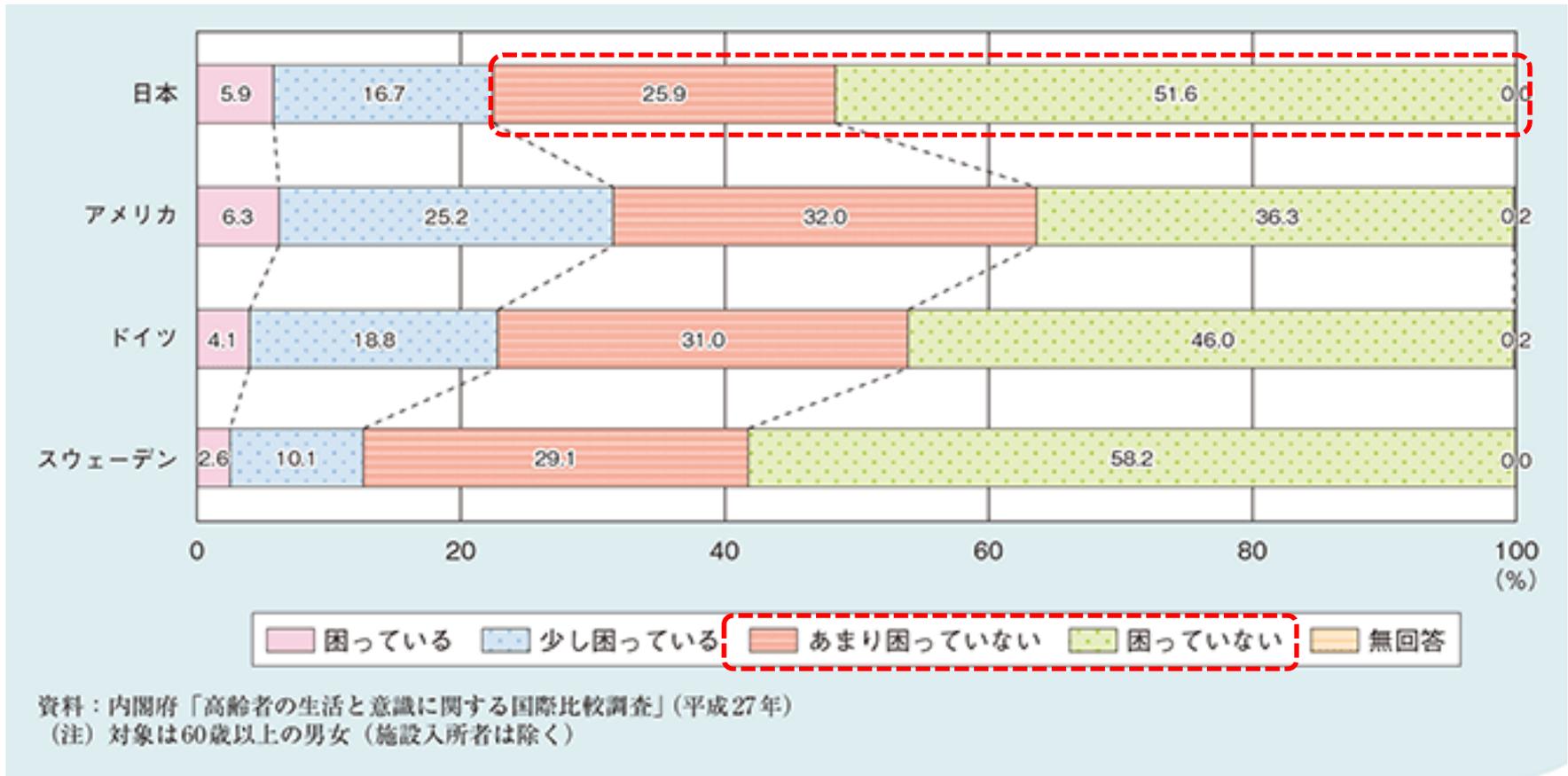


資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」(平成27年)

(注) 対象は60歳以上の男女(施設入所者は除く)

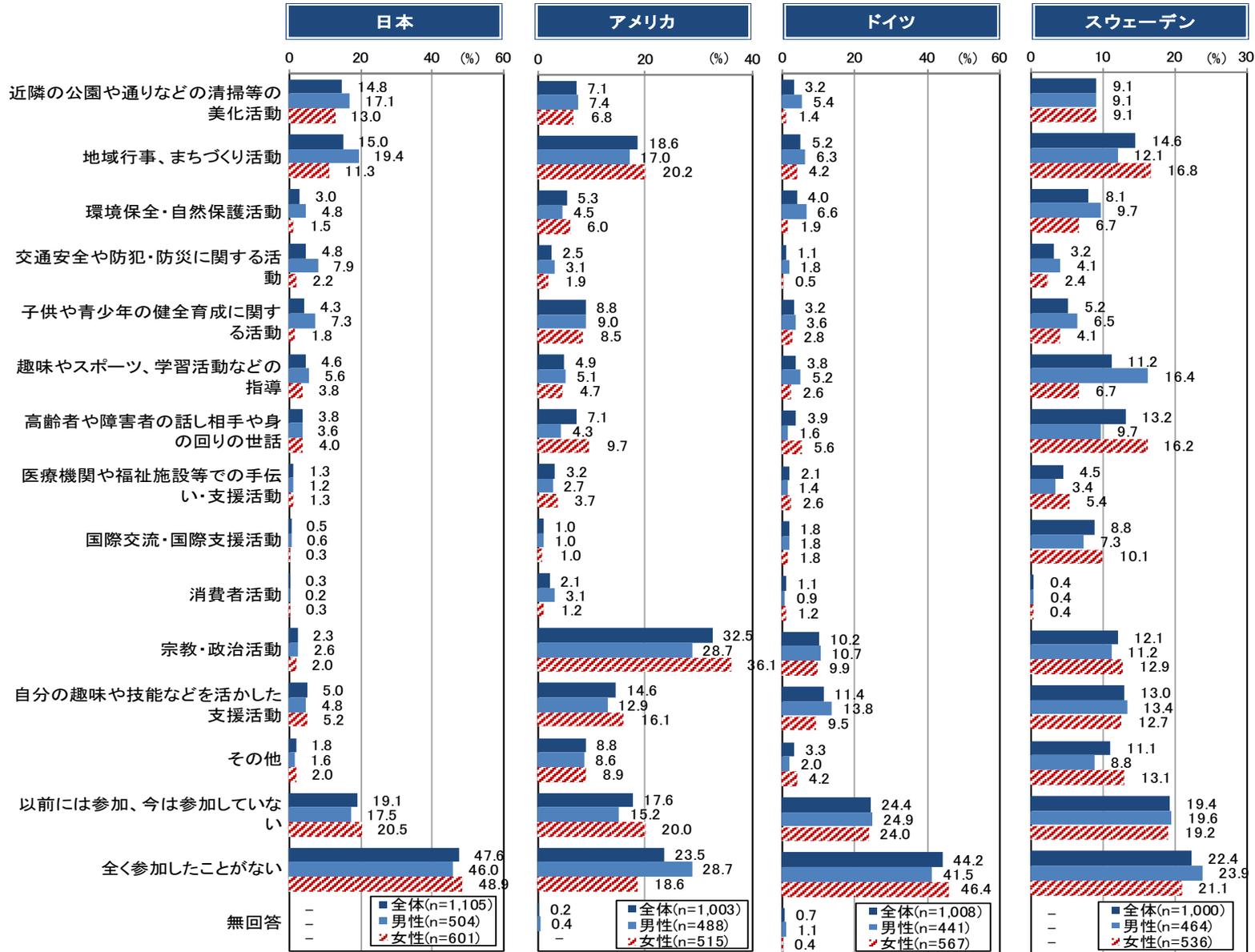
3. 日々の暮らしで経済的に困ることの有無

○ 日本の高齢者の77.5%は経済的に困っていないと回答



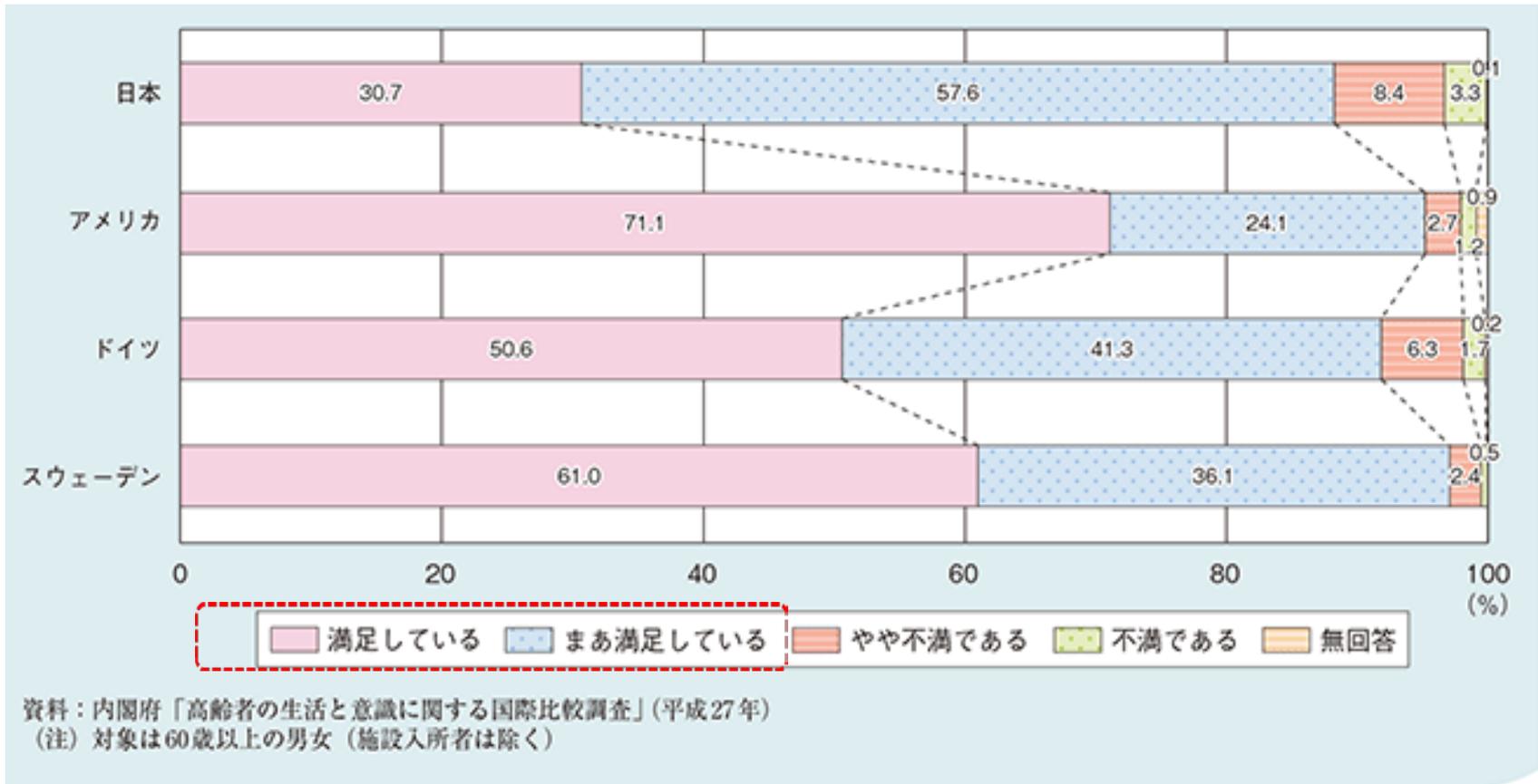
4. ボランティアへの参加状況

- 日本とドイツでは、4割以上がボランティアの経験がない。
- 日本では、地域行事・まちづくり活動への参加が最も多い



5. 現在の生活への満足度

○ 意識調査対象国すべての高齢者の約9割が老後生活に満足している



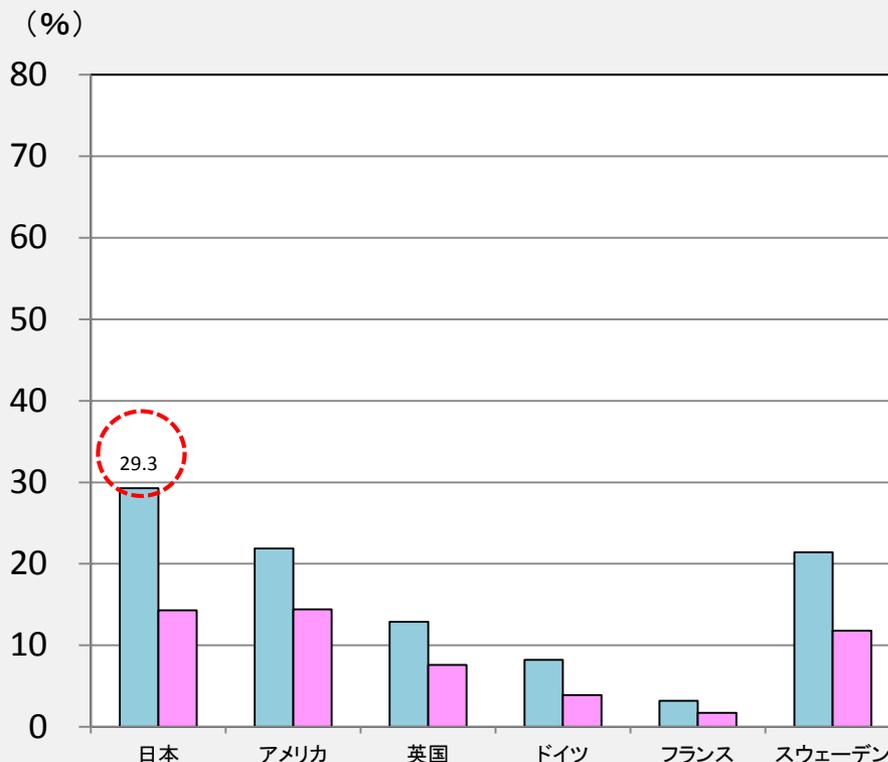
高齢者の就業率の国際比較(2014年)

(参考)

【60～64歳の就業率】

■ 男性 ■ 女性

【65歳以上の就業率】



資料:日本の値は、総務省統計局「労働力調査」(基本集計)

その他の国は、OECD.Statより厚生労働省政策統括官付政策評価官室作成。

(注) スウェーデンは75歳以上のデータがないため、65～74歳の状況